

尾鷲ひのき

～人と森林をつなぐ～

三重県環境学習情報センターでは自然素材などを利用した作品づくりを通して、身近な環境問題に目を向けていただくために「環境工房」という講座を開催しています。

今回は、来春開催する「環境工房」で「ひのきシートでつくる行燈」の講師を務めてくださる海虹路の活動をご紹介します。



作：池田 比早子さん
写真提供：尾鷲市

「ひのきシートの利用方法」は池田 比早子さんの特許です。



写真提供：尾鷲市

尾鷲地域の急峻な山では、雨によって養分が流されやすいため、土壌は痩せています。尾鷲ひのきはこの厳しい環境のなかで長い年月をかけてじっくりと育ちます。

温暖な気候で、雨の多い尾鷲地域で育った尾鷲ひのきは、年輪が緻密で耐久性に優れており、良質な木材として知られています。この尾鷲ひのきを使用した「ひのきシート」を考案したNPO法人海虹路の代表を務める池田さんは、尾鷲市を中心にクラフト体験会や環境学習会を行っています。

今回は活動のきっかけとなったひのきシートの魅力や、地域の自然を保全する活動についてお話を伺いました。

お話を伺った人



NPO法人 海虹路
代表 池田 比早子さん

平成14年
・第12回ホビー大賞
・「文部科学大臣賞」受賞
・三重県文化賞「文化新人賞」受賞



NPO法人 海虹路のみなさん
現在、女性を中心に10人ほどのメンバーがいます。体験会などで人と交流できることを楽しんで活動しています。

ひのきシートの誕生

平成11年に開催された『東紀州体験フェスタ』の時、アートフラワー講師をしていた池田さんに、来賓の胸飾りを作って欲しいと依頼がありました。

「尾鷲らしい素材を使って、胸飾りを作りたい」と考えた池田さんは、捨てられているかんなくずを花びらに見立てて、コサージュを作ることを思いつきます。そして試行錯誤のうえ、約60人分ものコサージュを完成させました。

捨てられるはずだった「かんなくず」は、池田さんの手によって、美しい花へと生まれ変わりました。以来、尾鷲ひのきを薄く削ってシート状にしたものを「ひのきシート」と名づけ、作品づくりに励むようになりました。